

# 2023 年度 運営総括

北星学園大学附属高等学校



Brighten the World in Your Corner

一隅を照らす光となれ



## I. はじめに

主は人の一步一步を定め 御旨にかなう道を備えて下さる

詩編 37:23

附属高校は、スクール・ミッションとして「キリスト教精神に基づいた他者と共に生きる自立した市民としての人格形成を育む」ことを教育目標として掲げ、さらに3つの力を育成することを大切にしてきました。

- ①「共育」を理念とし、他者の意見を聴き主体的に思考できる生徒の育成
- ②「知る力」を養い、自己理解と世界理解を深め、社会における自らの視野を広げることのできる生徒の育成
- ③「探究」することによって、学びを社会につなげ、社会に還元する力を身に付けた生徒の育成

2020年度には、「学校法人北星学園中長期計画～グランドデザイン 2020-2040～」を策定し、「2040年度までの目指す姿」を設定しました。また、2022年度には「2030年 Milestone（中期目標）」を据え、年度ごとのアクション・プランに従い、計画を実行しています。

少子化が進行する中、経営改善・教育改革に継続して取り組みます。本学のキリスト教精神に基づいた人格教育をより充実させることが、まず何よりも大切です。

その上で、5つの教育を柱とするブランド力ある高等学校として、チャレンジを続けました。

1. 「時代の変化」に則し未来をひらく教育
2. 課外活動等を通して「人間性」を育てる教育
3. 多様性を尊重しながら「社会性」を育てる教育
4. 語学・異文化理解・平和教育を通して「国際性」を育てる教育
5. 北星学園大学との高大接続教育

教学の観点では、本学の教育を深化させるために、各教員が国内の最新の技術を身につけ、学びを深め、社会のニーズを適切に把握し、時代の流れに流されない芯をもちつつ、実存する人間そのものを大切に活動を展開することを目指しました。財政運営については、グランドデザインに掲げる2030年度までの中期的な財政計画に基づいて、今年度も改善を目指しました。

事業分野		◎ 達成	○ 達成への進行度 (高)	△ 達成への進行度 (低)	× 中止	計
教学 マネジメント	I. 教科教育	5	4	2	0	11
	II. 生活指導	2	1	0	0	3
	III. 進路指導	2	1	0	0	3
経営・管理 マネジメント	I. 募集体制と広報	1	2	0	0	3
	II. 働き方改革	1	1	1	0	3
	III. 採用計画	0	1	0	0	1
財務 マネジメント	I. 財務運営方針	0	4	0	0	4
	II. 施設・設備	0	0	3	0	3
合計		11	14	6	0	31

※ 達成度 : ◎達成、○達成への進行度(高)、△達成への進行度(低)、×中止



## II. 教学マネジメント

### 1. 教科教育

教科指導力向上の目標として以下の11項目を掲げていました。進路学習連絡会議、教務部、各教科がこれらの項目を意識して指導に取り組むことで、向上を図っています。

(1)	知識を得ることや学ぶことに能動的に組み、自らの世界を広げることができるように、授業や行事を計画する。	達成度	◎
-----	--	-----	---

各教科でパフォーマンステスト、グループワークを行うことで、主体的、能動的に教科に取り組む生徒を育む仕掛けを模索しました。また、2学年の研修旅行やカナダ語学研修（有志）など、フィールドワークを行った生徒達が、プレゼンテーションを行う取り組みによって、自身の経験を共有できました。

北星学園大学への進学が決まった生徒が取り組む「探究プログラム」において、今年度はじめて大学で発表する機会が与えられたことは、これからの大学での学びにつながる励みになりました。



▲ 研修旅行の報告



▲ カナダ語学研修



▲ 「探究プログラム」発表

(2)	学習の機会に他者の考え方や価値観に触れさせ、知識や視野を広げ(深める)事で、人間性の成長を図る。対話による学習の機会を多く設け、周りの力も借りながら課題解決の力を養えるような指導力を身につける。	達成度	◎
-----	---	-----	---

映像教材や外部からの講師の講演を企画して、さまざまな考え方に触る機会を4回ほど企画しました。高校を卒業後にアメリカの大学に進学し、現地の会社でキャリアを積んで来られた女性や、元サッカー日本代表が選手としてスキルアップするために、どのような思考と練習方法で取り組んできたのかなど、実体験から語られる言葉は、表層的な知識だけではなく、背後にある苦勞を知る力を養うことができました。



▲ 卒業生（アメリカ在住）によるキャリア教育



▲ 元サッカー日本代表 城彰二さんの講演

(3)	適宜必要な情報を導き出し、それらを有機的に組立て活用し作り上げていく力を育めるよう、教員の情報スキルも高める。	達成度	○
-----	---	-----	---

何度、指導しても同じことを繰り返してしまう生徒に対して、従来の指導のあり方では上手く伝わらないのではないかという疑問から、指導のあり方を検討しました。特に、臨床心理士、特別支援士とオンラインで定期的にミーティングを行い専門的な見地から意見を聞き、特性のある生徒へ合理的な配慮について考えました。また、外部の講演会に参加した教員が学びの中で得たノウハウや知識を共有しました。

私たち教員の指導の在り方、外部専門家との連携の方法、個々のスキルアップについては、継続して高めていく必要があり、今後も積極的に参加を促していきます。

(4)	高校生活の間に、科学的・論理的な思考を深める事ができるように、3年間の学校生活の中であらゆる機会を通じて学ばせる。	達成度	△
-----	---	-----	---

教科指導では、理科の実験、数学の論理的思考力養成などを課題にして取り組みましたが、あらゆる機会です意図的に「科学的、論理的思考」を意識して取り組むまでには至っておらず、今後の課題とします。

(5)	発表の力を身に付けさせられるよう、複数の教科で探究的な学習を行う。	達成度	△
-----	-----------------------------------	-----	---

各教科の中でシラバスを点検し、総合では教科を横断し探究学習が行えるように努めましたが、複数の教科で十分に連携が取れるまでには至っていないため、今後も研究が必要です。

(6)	主体的・対話的で深い学びの実践を進める。	達成度	○
-----	----------------------	-----	---

講義形式から、生徒の学びのファシリテーターのような役割を教員が担えるように意識しました。結果、リーダー的な役割を担う生徒が自然と生まれ、教員の想定を超えたアイデアや答えの発表がありました。そこから各自の関心が広まり、主体的に授業時間外にも情報収集を行うなど学びが深まりました。

(7)	I C Tを活用し、知識・技能の定着を図りつつ、効率良く学習できる環境を整える。	達成度	○
-----	--	-----	---

I C T教材を活用して、各自の苦手分野の克服を行う宿題の配信を行いました。授業内ではタブレットを活用して、各自の意見を提出したり、グループ学習を行いました。

(8)	思考力・表現力・判断力を身に着け、自立した自己を確立する。	達成度	○
-----	-------------------------------	-----	---

(9)	多様性・協働性を意識し、他者や社会、世界とつながりを意識した課外活動を行う。	達成度	◎
-----	--	-----	---

課外活動を行うことで、机上の学びのみならず、体験的な学びを通して、他者や社会、世界とのつながりを考えさせました。総合研修旅行を通して体験的に学んだことや、留学生（3名：アメリカ、香港、ノルウェー）と席を並べて学習する機会は、世界を意識したものとなりました。



▲山陽コース（広島：原爆ドーム前）



▲留学生とグループワーク

(10)	変動する世界状況の中で、普遍的な真理（キリスト教精神に根差した人間観、倫理観など）を探求する。	達成度	◎
------	---	-----	---

本校が大切にしてきた平和学習を、映像教材（Iプロジェクト）等で積極的に行いました。10月に行われた平和祈念礼拝では、北星学園大学の中地美枝先生をお招きして、「第二次世界大戦後、ソ連と国家の人口政策」というテーマでメッセージを聞きました。兵役に志願し国家のために戦ったにもかかわらず、戦後、差別や偏見によって苦しんだ女性たちがいたという話は、この講演の時間だけで終わらせるのではなく、聖書科で事前学習から事後学習まで行い各自が考えを深め、最終的にレポートを作成して、3名の生徒の優秀な感想文を、全校礼拝で共有しました。

(11)	上記項目の目標を達成するために、外部研修への参加推奨、オンライン講義の参加、講師を招いた研修会の開催などで教員のスキルを向上させる。	達成度	◎
------	--	-----	---

昨年度に引き続き、「Findアクティブラーナー」の視聴に加えて、適宜、外部研修に参加しました。特に、移動時間が短縮できるオンライン講義への積極的な参加を行い、スキルを身につける努力を行いました。短い時間で学習できるため、より多くの教員のスキルアップの機会として普及するよう促します。現状としては、3名の教員が動画視聴数全国上位者に入り表彰をされました。

## 2. 生活指導

生活指導部に加え、学年部会、校内の「教育支援チーム」によって、定期的に生徒にアンケートを行い個々の生徒の心理的、精神的、身体的な状況や課題の把握に努めました。昨年度、顕著に多かった転学者の波を止めることはできませんでした。要因は、通信制、ネットを利用した単位制高校の普及など、多様な学び方の選択肢が与えられているほかに、コロナ禍で人間関係を築くことの経験が乏しかった生徒層がいて、集団での生活に馴染めなかったことなどが考えられます。これは本校のみならず、全国で起こっている現象のようです。生活指導は以下の3つの項目を掲げています。

(1)	人は社会の中で育つという考え方にに基づき「集団の中での教育」を理念として定め、実践するための具体的な仕組みを確立する。	達成度	◎
-----	---	-----	---

生身の人間同士が「集団」を作り、その中でしかできない経験を大切にして教育活動を行うため、学期のはじめに、アイスブレイク、レクレーション、エンカウンターグループを意図的に行い、集団作りを意識させました。石狩管内や、それ以外の多方面の地域の中学からも生徒達は集まっており、不安や緊張を抱えています。こうした取組みを通して、クラス内で打解けることができ、学年の集団作りに効果がありました。



▲クラスでグループ分けをして作業を行う



▲学年で体を動かしてレクリエーションを行う

(2)	他者理解と自己表現力を養いながら「人間性」「社会性」を育てるため、課外活動の活性化と指導体制を強化する。	達成度	◎
-----	--	-----	---

コロナ禍で中止を余儀なくされていた課外活動を再開できるようになりました。特に6月の中間試験の後に、課外活動として各学年で遠足を実施しました。また、これはコロナ禍に関係なく、授業時数とクラブ活動時間の確保のために8年程前から、中止していた行事です。こうした課外活動が、自己理解、表現力を育てる上で大切な機会であったことを再認識し、今年度、再開を決め強化しました。また学校祭や体育大会、学年レクリエーションを作り上げていく過程で、学年の協議会の自発的な要望や、新たな発想に、できる限り教員が寄り添うことにより、やらされているのではなく、生徒同士が他者への配慮を心掛け、他者を理解し、自己表現力を養う力を育てていきました。

(3)	全教職員で生活上の問題が起こる前に「未然に防ぐ」ことができる指導体制を構築する。	達成度	○
-----	--	-----	---

近年、多発しているネット上のトラブルに対して、ネットリテラシー教育の講演会を、外部講師を招いて実施しました。また映像教材を使って、啓発も行いました。

### 3. 進路指導

進路指導部、学年主任会議が中心となり、北星学園大学への指定校推薦枠 100 名を送り出せるように前年度と同じように取組みを行いました。その結果、総合型選抜・一般選抜も含めて 83 名の進学者を輩出しました。

さらに国公立大学への進学は、最後まで目的意識を持って諦めず取組ませるサポートを行いました。結果的に 13 名の国公立進学者のほか、難関私立大学の合格者も生まれました。

(1)	生徒自らが望む将来像に見合った進路選択ができるよう進路指導体制を強化する。	達成度	◎
-----	---------------------------------------	-----	---

自分は「どのような長所を持っているのか」「何がしたいのか」「何を大切にしたいのか」「それを実現するために何をするのか」という問いを持ちつつ、自分が望む将来像に沿った進路選択を妥協せずに切り拓く努力ができる生徒となるように、声をかけました。具体的には「努力したことは、決して無駄にはならない」という言葉を、進路指導において繰返し投げかけることで、粘り強く諦めない生徒に育ったのではないかと考えています。その結果、例年に比べて国公立大学進学者、難関私立大学への合格者を生み出すことができたのではないかと思います。

(2)	大学生（学園内）との交流等も含めた高大連携事業の効果を検証し、取り組みの強化を図りながら学園内進学者を増やす。	達成度	◎
-----	---	-----	---

学園内教育連携委員会の企画で、北星大学の教職員と協議する時間を設けました。大学の協力により、附属高校の生徒向けのオープンキャンパスが実施できており、意識づけができています。

(3)	時代によって変化する大学入試制度を研究し、進学希望者の進路実現に向けて適切な情報提供ができる体制を確立する。	達成度	○
-----	--	-----	---

本校が取組んできた学びが、大学入試制度の総合選抜などで採用されはじめています。本校が取組んできた学びとは、自分で問いを見つけて、探究していき、それを発表するというプロセスの指導です。こうした探究型の学習の成果を評価する入試制度を取入れている学校が増えました。

さらに新しい入試制度は塾や予備校が分析しており、教員が学びに行くことで、新しい大学入試に対応した学習、進路指導、本校が取組んでいた学びをブラッシュアップさせる情報や方法を教わりました。

### Ⅲ. 経営・管理マネジメント

#### 1. 募集体制・広報

生徒募集活動は、広報のトレンドを分析し、受験生と保護者に関心を持ってもらえるように工夫しました。以下に3つの項目を掲げています。

(1)	目指す姿に掲げた「5つの教育を柱とするブランド力ある高等教育」を意識し、私立の独自性を活かした戦略的な「広報」体制を確立する。	達成度	◎
-----	---	-----	---

学校説明会では、特に本校と他校の差異性を意識して広報活動を行いました。5つの教育の柱は、内容が分かるように、映像等やデータを使ってアピールしました。

(2)	入学生のニーズ、在校生の満足度を把握し、募集体制と広報に活かせる体制を構築する。	達成度	○
-----	--	-----	---

強化指定クラブのみならず、学校全体の教育活動における魅力を発信していきました。入学時の生徒アンケートを用いて好評だった点を把握しつつ、弱い部分を強化することに努めています。また在校生の声をアンケートで拾いながら、生徒に寄り添った指導、生徒と一緒に作り上げていく学校作りを考え、入試広報と連動する体制を模索しています。本校に足りないものは、個別最適化の教科指導であると分析しています。生徒の学校生活全般に対する満足度は高いものの、幅広い学力層がいる中で、ピッタリとあった指導を求めている生徒層がいます。

(3)	学校説明会やクラブ見学会など募集にかかる取組みを学内で適切に計画し、強化する。	達成度	○
-----	---	-----	---

年3回の学校説明会により多くの受験生に足を運んでもらうよう広報活動を行いました。また強化指定クラブを中心にしたクラブ見学会を計画して、安定的で適切な人数のクラブ生を確保できるように取組みました。



▲男子バスケットボール部



▲野球部 全道大会（札幌ドーム）



▲サッカー部選手権大会

本校の強化指定部はすべてチーム競技です。また、スポーツのコース編成をしていないため、同じクラスに様々な部活の仲間が机を並べています。全道大会に進出した部活がありますが、クラブの枠を超えて、互いに応援し合ったり、励まし合うことができました。こうしたクラブ活動の在り方も、特色として学内で共有し、受験生にアピールしています。

## 2. 働き方改革

D Xの推進も含めて、組織としての在り方を考える取組みを以下の3項目として掲げます。

(1)	D Xを推進し業務の効率化を目指す。	達成度	◎
<p>職員が共有する情報のペーパーレス化は、浸透してきました。T e a m sで常に情報を共有し、職員会議、総括会議、方針会議なども、データで見直すことができるため、莫大な資料を持ち歩く必要もなく、会議の時間も短縮できています。効率的に運用するには、データの整理や工夫が必要となりそうです。D X推進により、P Cのみで過去のデータも含めて持ち運びできます。また、会議録のメモを活用することにより、同じ話題を繰り返すことも少なくなりました。</p>			
(2)	コンプライアンスを徹底できるような管理体制を構築する。	達成度	△
<p>新しく赴任した教員が仕事上の手続き等が分かりやすいように規程集を作成します。一般社会の常識とかけ離れた言動とならないように確認していきます。</p>			
(3)	(学園の取組みとしての) 福利厚生 of 充実を図る。	達成度	○
<p>多様な年齢の性別の教職員が働きやすい環境を維持するために、学園にある制度の周知に努めました。労働時間の管理など課題はあるものの、労使間が信頼関係をもって福利厚生 of 充実を図りました。</p>			

### 3. 採用計画

(1)	計画的な採用と適正な人員配置を実現できる体制を構築する。	達成度	○
-----	------------------------------	-----	---

教育職は、教員不足の状況の中で、採用することが難しくなっています。新卒者や、他校や社会での経験を積んだ教員の採用など、少しずつ年齢層が多様化してきました。そのことで教育力も豊かになると考えています。しかし現場では、常に人員不足で多忙感が否めないという訴えもあるため、財務状況とも併せて、専門職（SSW、SC、SAなど）の配置、教員アシスタントの配置など、適正な人員配置を実現できる体制を整えることについて今後も検討していきます。

## IV. 財政マネジメント

### 1. 財務運営方針

財政運営計画については、中期計画で掲げた目標を実現できるように努めています。以下の4つの項目を掲げました。

(1)	奨学生を適正値におさめ入学生を安定的に確保することで、適正な収支バランスを作り出す。	達成度	○
-----	--	-----	---

2022年度奨学金システムの変更によって、適正値に収める取組みを続けました。クラブ奨学生のスカウトは、クラブ活動が多様化していることもあり、他校との競合という側面もあり難しさがあります。クラブにおいては競合校に負けない求心力が持てるように、満足度が高い部活動にできるように引き続き努力していきます。

(2)	スクールバス事業にかかる効果測定と検証を行ったうえで運行目的を明確化し、この事業において適正な収支バランスを作り出す。	達成度	○
-----	---	-----	---

スクールバス事業による生徒募集への影響をデータ分析しました。運行目的は、生徒募集力と、利便性だと考えています。社会情勢としては、燃料代の高騰、バス会社における運転手不足などが委託料金に反映し、財政的には支出が増える状況となりました。これには運賃の値上げで対応しました。また同時に公共交通機関の運行便数が減り、代金が上昇しているため、生徒の登下校の利便性は悪くなっています。運行を止めた場合、志望する選択肢から外れる地域は確実に存在し、受験生総数（一般入試も含めた）と入学生が減少するという仮説を立てています。抜本的な改革が求められてきましたが、様々な可能性とアイデアを研究しつつ、適正な収支バランスを、どの金額で設定するかを課題として、この事業の在り方について、事務と担当者で情報収集を継続します。

(3)	新施設の建築や設備の設置・修繕等を念頭にした中長期的な財政計画を立案する。	達成度	○
-----	---------------------------------------	-----	---

教学マネジメントを考える上で、学習スペースや探究スペースなど、新しい設備のニーズもありますが、今年度の一番の悩みは、生命にかかわるほどの猛暑で活動ができないということでした。このことについては、理事会に上申した冷房の設置が決定し、解決の道が見えました。

中長期的には、現在の校舎を修繕しながら、できる限り長期間使用していくことが必要だと思います。その為に、生徒と教職員で、丁寧な清掃を心がけています。

(4)	設定した寄付額を達成できるような募集体制を構築し、寄付を推進する。	達成度	○
-----	-----------------------------------	-----	---

寄付の募集活動を引続き行うと共に、寄付を呼びかけていますが、社会の経済情勢も厳しくなり、願うほどの金額には届きませんでした。企業等や地域の方々にも寄付をしていただけるような魅力ある学校を築き上げていきます。

60周年の記念事業への寄付の初年度の財政目標は、75%ほどの達成でした。2024年の前期まで募集を継続します。

## 2. 施設・設備

60周年の記念事業として、総合グラウンド整備（人工芝化）を行いました。地域の少年や中高年のサッカーチームの練習、試合などの貸出しに、予想以上に多くの日数が使われています。また、学校行事や体育の授業にも、天候に大きく左右されず使用でき、設置当初の目的は達成できています。

2040年に向けて実現することを念頭において以下の3項目を掲げています。すべて具体的な進展はありませんでしたが、今後の将来構想に関する取組みのなかで継続して検討していきます。

(1)	キリスト教教育を象徴する講堂（多目的礼拝堂）を建設する。	達成度	△
-----	------------------------------	-----	---

近隣の私立中高では、ホールを建設して、地域の方を招いて演奏会などを催しています。本校は、式典や学校説明会を体育館で行っていますが準備から後片付けの期間は、パイプ椅子の設置により、傷みも早くなっていることは否めません。しかし、財政状況を考えて、状況が整った時に、慌てて計画するのではなく、どのような建造物が良いかを考えておくことが必要です。

(2)	スクール・ミッションを体現できる施設（教室、交流スペース、図書館、体育施設など）の設計を行う。	達成度	△
-----	---	-----	---

上記と同じ。

(3)	これらは財政運営目標を達成した際に現実化に向けて検討を始める。	達成度	△
-----	---------------------------------	-----	---

グラウンドデザインの目標値を目指して学校運営を整えていきたいと考えています。

以上

# 北星学園大学附属高等学校の中長期計画

スクール・ミッション

「キリスト教精神に基づいた他者と共に生きる自立した市民としての人格形成を育む」  
 主に3つの力を育成することを大切にする。  
 1. 「共育」を理念とし、他者の意見を聴き主体的に思考できる生徒の育成  
 2. 「知る力」を養い、自己理解と世界理解を深め、社会における自らの視野を広げることのできる生徒の育成  
 3. 「探究」することによって、学びを社会につなげ、社会に還元する力を身に付けた生徒の育成

2040年までに目指す姿	強化・改革に取り組む事柄	2030年Milestone（中期目標）	
<p>【5つの教育を柱とするブランド力ある高等学校】</p> <p>1. 「時代の変化」に則し未来をひらく教育</p> <p>2. 課外活動等を通して「人間性」を育てる教育</p> <p>3. 多様性を尊重しながら「社会性」を育てる教育</p> <p>4. 語学・異文化理解・平和教育を通して「国際性」を育てる教育</p> <p>5. 北星学園大学との高大接続教育</p>	<p>強化・改革に取り組む事柄</p> <p>Ⅰ教科教育</p> <p>スクール・ポリシーを踏まえた教育を実施し、スクールミッションの実現を目指す。</p>	<p>知識を得ることや学ぶことに能動的に取り組み、自らの世界を広げることができるよう、授業や行事を計画する。</p> <p>学習の機会に他者の考え方や価値観に触れさせ、知識や視野を広げ（深め）る事で、人間性の成長を図る。対話による学習の機会を多く設け、周りの力も借りながら課題解決の力を養えるような指導力を身につける。</p> <p>適宜必要な情報を導き出し、それらを有機的に組み立て活用し作り上げていく力を育めるように、教員の情報スキルを高める。</p> <p>高校生活の間に、科学的・論理的な思考を深める事ができるように、3年間の学校生活の中であらゆる機会を通じて学ばせる。</p> <p>発表の力を身に付けられるように、複数の教科で探究的な学習を行う。</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実践を進める。</p> <p>ICTを活用し、知識・技能の定着を図りつつ、効率良く学習できる環境を整える。</p> <p>思考力・表現力・判断力を身に着け、自立した自己を確立する。</p> <p>多様性・協働性を意識し、他者や社会、世界とつながりを意識した課外活動を行う。</p> <p>変動する世界状況の中で、普遍的な真理（キリスト教精神に根差した人間観、倫理観など）を探究する。</p> <p>上記項目の目標を達成するために、外部研修への参加推奨、オンライン講義の参加、講師を招いた研修会の開催などで教員のスキルを向上させる。</p>	
		<p>Ⅱ生活指導</p>	<p>人は社会の中で育つという考えに基づき「集団づくりを中心に据えた教育」を理念とする実践構築のための具体的な仕組みを確立する。</p> <p>他者理解と自己表現を養いながら、「人間性」「社会性」を育てるため、課外活動の活性化と指導体制を強化する。</p> <p>生活指導上の問題が起こる前に全教員で「未然に防ぐ」ことができる指導体制を構築する。</p>

2040年までに目指す姿	強化・改革に取り組む事柄		2030年Milestone（中期目標）
<p>【5つの教育を柱とするブランド力ある高等学校】</p> <p>1. 「時代の変化」に則し未来をひらく教育</p>	教 学	Ⅲ 進路指導 <small>スクール・ポリシーを踏まえた教育の実現を目指す。</small>	生徒自らが望む将来像に見合った進路選択ができるように、進路指導体制を強化する。
			大学生（学園内）との交流等も含めた高大連携事業の効果を検証し、取り組みの強化を計りながら学内進学者を増やす。
			時代によって変化する大学入試制度を研究し、進学希望者の進路実現に向けて適切な情報提供ができる体制を確立する。
<p>2. 課外活動等を通して「人間性」を育てる教育</p> <p>3. 多様性を尊重しながら「社会性」を育てる教育</p> <p>4. 語学・異文化理解・平和教育を通して「国際性」を育てる教育</p> <p>5. 北星学園大学との高大接続教育</p>	経 営・ 管 理	Ⅰ 募集体制と広報	目指す姿に掲げた「5つの教育を柱とするブランド力ある教育」を意識し、私立の独自性を活かした戦略的な「入試・広報」体制を確立する。
			入学生のニーズ、在校生の満足度を把握し、募集体制と広報に活かせる体制を構築する。
			学校説明会やクラブ見学会など募集にかかる取組みを学内で適切に計画し、強化する。
		Ⅱ 働き方改革	DXを推進し業務の効率化を目指す。
			コンプライアンスを徹底できるような管理体制を構築する。
		Ⅲ 採用計画	計画的な採用と適正な人員配置を実現できる体制を構築する。
財 務		Ⅰ 財務運営方針	2030年に向けて設定した財政運営目標を達成する。
			奨学生を適正値におさめ入学生を安定的に確保することで、適正な収支バランスを作り出す。
			スクールバス事業にかかる効果測定と検証を行ったうえで運行目的を明確化し、この事業において適正な収支バランスを作り出す。
			新施設の建築や整備の設置・修繕等を念頭に中長期的な財政計画を立案する。
Ⅱ 施設・設備	設定した寄付額を達成できるような募集体制を構築し、寄付を推進する。		
	キリスト教教育を象徴する講堂（多目的礼拝堂）を建設する。		
	スクール・ミッションを体現できる施設（教室、交流スペース、図書館、体育施設など）の設計を行う。		
			上記は、財政運営目標を達成した際に現実化に向けて検討を始める。